

事業名	概要	現状報告		成果	課題	今後の取組み
介護予防運動活動支援事業	市民に対し、介護予防のための運動活動を自主的に地域で行えるサポーターを養成し、地域にて実践することにより、高齢者の介護予防に繋げる	ボールンピック大会	<ul style="list-style-type: none"> 予選会 85チーム、参加者580人 本大会 15チーム、参加者119人 	昨年度より各地域の公民館等で予選会を行ったことにより、参加者が増えた。	参加していない地域に声掛けなどを行うも、感染症の影響もあり、参加に至らなかった。	年間行事の一つにボールンピック大会を取り入れていただくようにシニアクラブのない地域に積極的に働きかけ、より多くの地域で展開していきたい。
		運動サポーター養成講座	<ul style="list-style-type: none"> 運動サポーター登録 52人（内今年度養成5人） 養成講座回数 3回 延参加者数 32人 フォローアップ研修 8回(全10回) 延参加者数 130人 	養成した5名はすでに地域活動に取り組んでいる方がほとんどだったので、地域活動における家トレ（タオル体操など）の推進に繋がっている。今年度はフォローアップ研修の一部を地域で実施できた。実際の地域活動をどのように行ったらよいかより具体的にアドバイスができるように、また、地域のサポーターのモチベーションのアップにつなげることができた。	研修内容によって、参加人数に大きく差が出ているため、サポーターのモチベーションの維持向上につながるようなフォローアップ研修を行っていきたい。	サポーターがいない地域にゆいが行うサポーター支援事業など地域活動の仕組みを説明した上で、サポーターを養成するように福祉会などを通し、声をかけていきたい。
		地域で実施されている介護予防運動教室の支援	<ul style="list-style-type: none"> 支援地域 17カ所 延支援回数 273回 延活動参加人数 3690人 サポーター延べ支援数 688人 	千鳥東ヘルスステーションが1カ所立ち上がった。コロナ禍においても、サポーターが感染症対策を講じ、できる範囲で活動を行った。	サポーターがいても、コロナの影響で活動が止まったままのところがある。小野小・花鶴小学校区など地域サポーターが少ない地域での活動がないため、昨年度福祉会を通し、声掛けを行ったが、新たな地域活動にはつながらなかった。	サポーターがいない地域にサポーターを養成するように声をかけていき、地域展開につなげて行きたい。
		出前講座	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり 回数 27回 延べ参加者数 444人 その他 回数 19回 361人 	シニアクラブからの依頼で体力測定を実施した地域が昨年度は10団体だったが、今年度は14団体と増えた。	家トレの推進に『運動やってみ隊』、体力測定を実施する『測ってみ隊』とそれぞれ活躍していただいているものの、少数で行っているため、新たな担い手を徐々に見つけていきたい。	家トレや体力測定をいろいろな地域で推進できるように出前講座を周知していきたい。
介護予防音楽活動支援事業	地域で音楽を通した介護予防活動を行う人材育成を行い、地域の公民館等で介護予防活動を実施し、高齢者の健康づくりや介護予防を推進する	音楽サポーター養成講座	<ul style="list-style-type: none"> 音楽サポーター 34人 養成講座回数 11回 延べ参加者数 85人 フォローアップ研修 10回 延べ参加者数 147人 	養成講座では8名が受講中。（うち2名は指導サポーター可）全員が地域で活動することを希望している。フォローアップ講座は自主的な勉強会のスタイルになって3年目になる。講座を更にサポーター活動に活かせるように、アンケートを実施。	地域住民の音楽サポーターによる介護予防音楽活動の開催をめざしているが、地域住民のサポーターがまだいない所もある（2箇所。今後養成講座の受講生募集の時には心掛けて声かけしたい。	どの地域もいずれは指導サポーターに頼らずに鍵盤ハーモニカの自主練習ができるようになるのが目標なので、フォローアップ講座のより一層の充実を図りたい。
		地域で実施されている介護予防音楽教室の支援	<ul style="list-style-type: none"> 支援地域 18カ所 延べ支援回数 203回 延べ活動参加人数 1810人 サポーター延べ支援数323人 	今年度は年間を通して、全ての地域でほぼ予定通りに活動が実施された。新しく活動を始めた地域も2箇所増えた。	音楽活動サポーターとして活動が8年目を迎える方も多く、長年にわたるご支援を有難く思う。ただサポーターの方も次第に高齢化してゆくの、若い世代のサポーターを増やしていく必要があると考える。	フレイル予防に音楽を取り入れる為に家で一人でも練習出来るような教材や仕組みづくりが必要だと思う。また、現在無料で貸し出している鍵盤ハーモニカも不具合が生じてきているので、長く練習を続けている方には楽器の購入も検討してもらいたい。
		生き生き音楽交流会	<ul style="list-style-type: none"> 参加地域 17カ所 参加人数 180人 ※1月～2月にかけて順次録画中 	撮影、DVDの編集はデジタルサポーター2名の協力によって行われている。年に一度の演奏の撮影は参加者の練習のモチベーションになっていると思われる。	コロナ対策でDVD録画による交流を始めて3年目になるが、やはり実際に生の演奏を通じた交流も大切だと思う。	昨今は音楽のイベントの規制も緩和されてきているので、感染対策に配慮しながらも生の演奏に触れる交流の方法を模索したい。
介護予防サポーター活動支援事業	高齢者の社会貢献を促すことで、生きがいづくりに寄与するとともに、地域や高齢者施設等の生活支援や介護予防も併せて進める	<ul style="list-style-type: none"> サポーター登録者数 193人 地域・施設等登録数 35カ所 延べ支援回数 680回 サポーター延支援数 1383人 延参加者数 7096人 		コロナ禍において、サポーター活動も自粛・縮小を余儀なくされる状況だったが、193人の方がサポーター登録しており、介護予防サポーター活動に対する意欲を感じることができた。	受入れを希望する施設と介護予防サポーターのマッチング会を行う予定であったが、コロナの影響で中止となり、開催できなかった。サポーターが活躍する場の確保が困難である。	コロナの状況を見て、受入れを希望する施設と介護予防サポーターのマッチング会を実施する予定。

事業名	概要	現状報告		成果	課題	今後の取組み
地域活動サポートセンター運営事業	地域のつどいの場や高齢者施設等で行われる健康づくり等の活動を支援するボランティアを養成し、高齢者等の健康の増進及び社会参加の促進を図る	ゆいさぼ教室	・14教室 利用者数 1206人 (ゆいさぼサポーター 97人)	ビギナー教室の受講がきっかけとなり、サポーター登録をするという流れが定着してきた。	出前講座の依頼が少なく、地域等に出向く機会が少ない講座がある。ゆいさぼ教室で養成されたサポーターのモチベーションアップのために活躍の場を増やしたい。	6月から令和5年度のビギナー教室が開講する。2つの新講座も開講する予定。幅広い人材の育成を図りたい。
		ゆい出前講座	・回数 16回 延参加者数 290人	コロナの影響で出前講座の依頼が全くなかった時期もあったが、少しずつ依頼が増えてきた。サポーターの意欲向上にもつながっている。	講座によって出前講座の依頼数に偏りがある。地域団体等にさらに周知し、依頼数を増やしサポーター活動を充実させたい。	地域や施設等の多様なニーズに応えるため、令和5年度より、ゆい出前講座に新メニューが加わる予定である。
外出促進事業	高齢者の社会参加を促し、閉じこもりの予防と健康づくりを推進する	高齢者外出促進事業	・期間：令和4年7月～ 令和5年2月10日 ・シール配布対象イベント数 地域：267 行政：64 ・当選人数 100人	コロナ禍において急なイベントの中止・変更になっても対応できるよう、令和3年度から事業の実施方法を一部変更し、令和4年度においても柔軟に対応することができた。通年シールの配布が可能となり、参加しやすくなったと参加者からも好評である。	イベント登録をする団体が多い地域と少ない地域があり、地域間でシールをもらえるイベント数に差がある。地域のシール配布対象イベントが分かりにくいという声があった。	行政区長、福祉会、シニアクラブ等、地域の団体に事業への参加を呼びかけ、地域間のイベント数の差を縮める。 また、イベント登録を申込した地域団体にイベントの周知を呼びかけていきたい。
		こがんよか健康ポイントキャンペーン	・期間：令和4年7月～令和4年11月20日 ・応募人数 73人 (当選人数23人)	キャンペーンを通してふくおか健康ポイントアプリを知ってもらい、健康づくりのきっかけとなった。	キャンペーン2年目で昨年よりも応募人数は増えたが、さらに認知度を高める工夫が必要である。	行政区長、福祉会、シニアクラブ、市ホームページ等でキャンペーンの周知を行う。 応募条件等を見直し、参加意欲を高める。
生活支援体制整備事業	地域の支え合いネットワークの構築を行い、住み慣れた地域で高齢者が安心して暮らせる体制を整備する	地域支え合いネットワーク全体会	小学校区地域支え合いネットワーク全体会議 1層：古賀市の高齢者状況報告 2層：グループワーク実施 テーマ：地域課題に向き合う	8小学校区で地域支え合いネットワーク全体会を開催。 11/13舞の里 11/29花見 11/30東 12/13青柳 1/17小野 2/8西 2/13花鶴 2/25 千鳥 各行政区に生活支援コーディネーターが入り課題を探り、全体会議において校区で意見交換を行う。	地域支え合いネットワーク全体会議を開催し、校区や行政区の課題が明確になってきた。その課題を基に地域で課題別会議に持ち込んでいくことが必要。 地域の参加状況にばらつきがある、地域活動に関心が薄い地域が、やはり全体会議にも参加が少なく、ネットワークが気づきにくい現状がある。	本年度の全体会は、充実していた。意見の中で、開催時期をもっと早くしてほしいの意見もあった。 3月に1層の全体会議として、高齢者施策に関わる機関を招き、報告会を開催する予定。
		ネットワーク通信	・14号：古賀市の高齢者状況 地域活動サポートセンターの役割 ・15号：地域はあなたの力を待っている。 (ボランティア活動一覧) 作成中 各5000部	13号の啓発 古賀市で地域活動に対し出前講座を行ってもらえる団体の一覧表をR3年末に作成。4月より関係機関に一斉配布。R4年度のつどいの場の活動に活かす。 14号にて、地域活動サポートセンターの機能を明確にした。センターの説明パンフとしても今後活用していく。	地域支え合いネットワーク通信は、体制整備事業の啓発や地域課題解決のための情報の見える化を目的に発行している。目的を達成するには、古賀市の高齢者課題を分分析し、何の情報が見える化する必要があるかを明確にしていくことが求められる。	15号の啓発を4月より行っていき、市民の社会参画を推進していく。 16号作成10月末完成予定 9期日常圏ニーズ調査（R4年度調査） 結果の見える化 17号作成3月末完成予定 R5年度に見えてきた課題をふまえ、内容を検討
		介護予防・生活支援課題別会議	・課題別会議 (買い物支援・人材育成) ・社会資源の開発 ・社会資源の見える化	買い物支援 古賀市の買い物支援に関する現状が明確になってきた。 人材育成 関係機関との連携が取れ始める。情報の共有を行うことになった。	地域支え合いネットワーク全体会において、協議していくと、古賀市においては、移動支援課題が地域課題となっているところが多いことに気づく。団塊の世代の方たちが免許を手放すまでに5～6年。課題別会議を開催する必要がある。	・移動支援の現状をまとめ、関係課との課題別会議を開催したい。 ・13号ネットワーク通信で発信した出前講座一覧は、まちづくり推進課がホームページ等で発信予定。また、人材バンクの取組は、生涯学習推進課公民館係が、行う予定。
		SC/CSW連携タイム	・年間30回（R5年1月末） SC/CSW学習、情報共有・事業の構築 ・地域交流カフェ（5回）	昨年度より、2層生活支援コーディネーター3名配置し、地域担当を決め、活動が始まる。本年度は、2年目に入り協議内容が充実してきた。地域交流カフェでは、介護予防サポーターと地域とのマッチングが推進できた。	地域課題が明確になると、1層・2層の生活支援コーディネーターの連携は重要となる。 生活支援コーディネーターの位置づけや業務を、9期介護保険計画に明瞭に記載していく必要がある。	生活支援コーディネーターの目的や業務を、9期介護保険計画に位置付け記載していく。 介護予防サポーターの活動と地域のマッチングを強化していくためにも、地域交流カフェの活性化を図りたい。